

策定経過

1 策定の主旨

現在の都市計画においては、人口減少・超高齢社会に対応するため、持続可能な都市構造として集約型都市構造（コンパクトシティ）の構築を目指している。

一方で、地震・津波リスクの高い沿岸部に市街地の多くが位置する当県では、コンパクトシティの考え方を基本としながら、地震・津波に強い都市構造を構築するといった都市全体のグランドデザインを描くことが課題となっている。

このため、「三重県地震・津波対策都市計画指針（仮称）」を策定し、各市町が策定する都市マスタープランや次期三重県都市マスタープランに反映することとする。

※右図：将来土地利用構想において、大きな花びらのように示す集積型広域拠点（旧市街地を除き、浸水想定区域に含まれ、リスクがある区域に都市機能を誘導する計画となっている。

津都市計画区域将来土地利用構想と津波浸水想定※



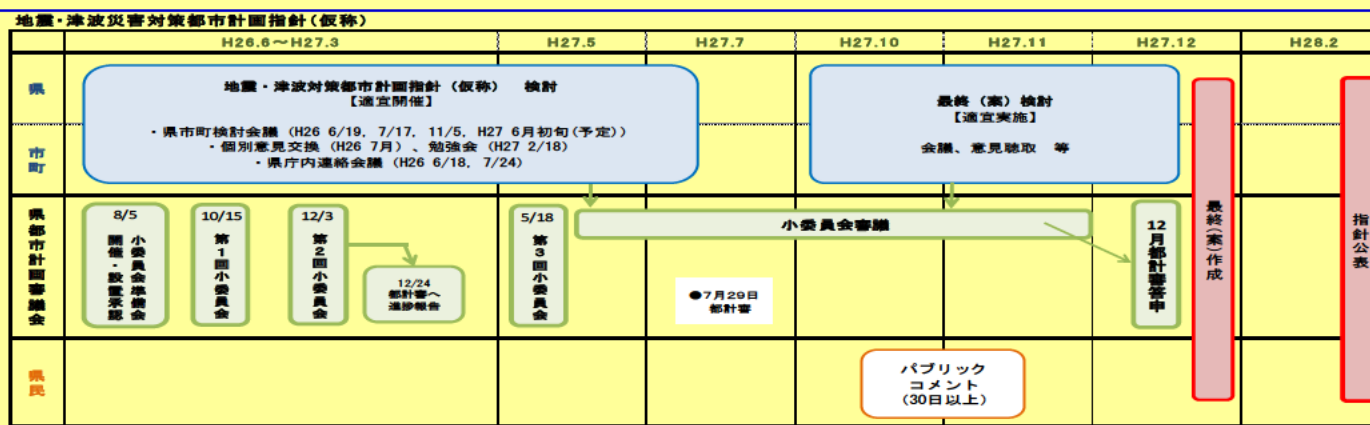
2 都市計画審議会での確認内容 [H26.12.24 第177回都市計画審議会]

目的 地震津波に対応した都市づくりの考え方を示し、都市マスタープランへ反映する。

基本的な視点 近い将来に発生が危惧されている巨大地震に対し、まず、人命を守ることを最優先とした都市計画上の対応を検討するとともに、都市機能の確保や被害の軽減については、中長期的な視点で都市計画に反映していく方向で検討を進める。

指針の内容 市町域を超える広域な連携、機能分担などを含めた都市構造の考え方と市町の地理的特性を考慮した施設の配置や土地利用の考え方の2つについて、被災後の復興も見据えて様々な手法を提示し、市町や住民の方々が選択して取り組める指針とする。

3 策定スケジュール



指針の構成等

4 指針の構成

- 本編
 - 第1章 指針策定の目的と利用方法
 - 第2章 現状と課題
 - 第3章 地震・津波災害に対応した都市づくりの進め方
 - 第4章 地震・津波災害に対応した都市づくりの目標の設定
 - 第5章 地震・津波災害に対応した都市づくりの方針の決定
 - 第6章 地震・津波災害に対応した都市づくりの定期的な見直しの考え方
- 資料編
 - ・地域特性別反映モデル（都市レベル、地区レベル）
 - ・地震・津波災害に対応した都市づくりの検討にあたっての施策集

5 指針における検討と関連計画との関係

- 基礎情報の整理
 - ・災害履歴
 - ・対象地域の現状（主要施設の配置、土地利用特性等）
 - ・災害対策の現状（避難場所・避難路、防災施設等）
- 被害想定から対象とする災害の決定
 - ・被害想定・分析により災害から人命を守り、都市機能を維持・継続する観点で対象地域における災害を決定
- 地震・津波災害に対応した都市づくりの目標を設定
 - ・地域特性、地域ニーズにより都市、地域の目標モデルを複数設定
 - ・地震動、津波浸水深、津波到達予測時間等により市街地を地理的特別に地域分類し、都市レベル、地区レベルにおける反映モデルから選定

●都市の将来像に取込
・都市マスタープラン

●復興に向けた都市づくり計画に取込
・被災後の都市の復興像

●都市計画決定
・土地利用規制、施設計画

- 地震・津波災害に対応した都市づくりの方針の検討
 - ・時間的概念を考慮し、安全で確実な避難の確保と地震津波に強い都市構造の構築を検討

	人命を守る	都市機能を守る
施設配置		
土地利用		

時間的概念：短期（数年以内）・中長期（20年）・長期（50年）

- 定期的な見直し
 - ・各対策の進捗、市街地の状況等に対応した見直しを実施